

# 第5回

## しまね景観賞

島根県



## はじめに

---



島根県知事 **澄田信義**

本県は、緑織りなす山なみや変化に富んだ海岸線、日本海に浮かぶ島々など美しい自然に恵まれ、先人達が守ってきた歴史と伝統など、それぞれの地域で個性的な景観が形づくられています。

このような多彩な景観を保全するとともに、地域に調和した新たな魅力ある景観を創造するためには、地域の人々が、日頃から自らの周りに関心を持ち、主体となって取り組むことが大切です。

平成3年12月に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定して以来、ふるさと島根の景観を保全し、創り出す様々な活動が行われてきました。その中で、地域の景観づくりに特に貢献したものを表彰するため創設した「しまね景観賞」は、行政、県民、事業者が共に参加でき、景観に対して積極的な関心をもつことのできる表彰制度として、それぞれの立場、それぞれの地域で景観に対する意識の高揚に寄与しているものと考えております。

今後とも、「しまね景観賞」が景観への関心を高め、心の豊かさと活力にあふれる地域をつくるための一助になることを期待いたします。

受賞されました皆様には、深く敬意を表するとともに、選定に当たり御尽力いただきました「しまね景観賞審査委員」の皆様並びに、この趣旨に賛同し応募をいただきました皆様に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成10年2月



## 選考総評

---



しまね景観賞審査委員会  
委員長 **藤岡大拙**

今回で5回目を迎えたしまね景観賞であるが、応募数も98通と昨年より多い応募となり、関心が高いことがうかがえる。

さて選定にあたっては、景観を考える上で基本的な考え方の“その物が今後もそこにある”ことを意識し、審議を行った。年を経て、より馴染み、やがてその地域の趣となっていくことを考えた景観づくりが応募物件の中に数多く見受けられたことは高く評価したい。いずれの物件とも質が高く、長時間にわたり慎重に審議を重ね、以下のとおり11件の物件・活動を選定した。

大賞に選ばれた「水ふれあい広場“水の国”」は、江の川に面した谷が持っている風景を、この建物が造られることで、より美しい空間とした。景観の相乗効果とでもいえるような雰囲気を出している。

優秀賞は5件である。まち・みどり部門からは住民で組合をつくり建築協定を締結して景観づくり活動を行っている「馬木北町まちなみづくり活動」が選ばれた。馬木不動尊の森を借景に、新しい町に美しい街並みを創出してきている。土木施設部門からは奇しくも2件の砂防河川「玉湯川県単独砂防環境整備事業」と「黒田川県単独砂防整備事業」が選ばれた。同じように自然石を多数使い、水の流れを考えて造られている。立地条件は違っても、人が川に求める“親しみ”を上手に演出した景観と河川環境をつくっている。一般建築物部門からは、小さな劇場を意識し、決して強く主張しない建物と照葉樹をふんだんに利用し、四季を演出する「林間劇場しいの実シアター」が選ばれた。工作物・その他部門では素朴な風合いを持つ来待石を使用した「出雲国風土記道しるべ事業」が選ばれた。移ろいゆく時を感じさせるこれらのサインは、古の出雲を訪れる人々に懐かしい景観を提供するであろう。

奨励賞は5件である。一般建築物部門「はすみ文化プラザ」、個人住宅部門「並河家土蔵改修」および工作物・その他部門「自動販売機等修景」の3物件は、その地域の面影を大切にするために、古くからの物を再利用する。あるいは新しい物をその場にあうように修景するといったことで、地域の景観に配慮したものとなっている。土木施設部門「白瀉天満宮前ロータリー広場」及び個人住宅部門「中島邸」の2物件は、立地条件に違いはあるが、共に“周り”を意識して、その景観の中にとけ込む工夫を行ったものとなっている。

最終審査に残った物件はどれも表彰に値するものばかりであり、景観を念頭においた取り組みの着実な拡がりを実感した。今後、さらに多くの県民、事業者が積極的に取り組まれることを期待するとともに、この制度が多くの人々に支持されるよう、引き続き努力していかねばならないと思っている。

# 大賞

## 水ふれあい公園「水の国」

### 所在地

邑智郡桜江町坂本2025

### 事業主体

桜江町

### 設計者

高野デザインプロデュース

### 施工者

鴻池組・今井産業特別共同企業体  
今井産業(株)  
(株)乃村工藝社

### 概要

展示棟(水物語など) 寂水の庭 中央池  
鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上2階  
区域面積 17.863㎡ 竣工 平成9年3月



現地審査に訪れ、その幻想の世界に圧倒され、失礼ながら町当局の説明も上の空で、夢中でカメラのシャッターを切ったあの興奮はなんであったのかを考えてみるに、それは、そこに求めていた〈景観〉をみただけからである。

この〈水の国〉は、〈水〉という素材をサイエンスで楽しめる水のミュージアムである。この施設を計画するにあたっては、プロデュースをし、全体を総括されたマスターアーキテクトを中心に、建築家、彫刻家、デザイナー、そして町当局による度重なるワークショップによって方向付がなされ、設計が進められたという。完成されたこの施設を見た強い印象は、多くの要素をもち、それぞれの要素が個々には強いインパクトを与えながらも、見事に有機的に統一され、まるで一つの生物のように息づき、演出をされていることである。そして、その息づきをもった〈水の景観〉が、この山村のV字谷を一変し、この地方に見受けられる棚田や石垣などに風土性を求めながら幻想の世界を醸し出し、この地の景観に光を与え、引き立てていることである。建築部門の景観形成のあり方の模範として高く評価をしたい。(矢田清治)

# まち・みどり部門 優秀賞

## 馬木北町まちなみづくり活動

### 所在地

出雲市馬木北町

### 事業主体

馬木北景観保全組合

### 概要

平成7年10月

「馬木北町まちづくり建築協定」締結

協定締結戸数 50戸

協定締結面積 15ha



受賞対象は、斐伊川神戸川治水事業に伴う土地区画整理事業である。土地区画整理事業そのものは各地で試みられているものであり、歴史もある。日本にはドイツの制度が導入されたとされる。評価の対象となったのは、事業とともにつくられた景観形成計画とそれを支える「馬木北町まちづくり建築協定」である。景観行政、景観計画にとって、一番大事なのは合意形成である。私有地だからといって個々が勝手にデザインするとすれば調和ある景観がつけられない。馬木北地区は、馬木不動尊を中心とするシイの群生林との調和を目指して、外壁面の位置、垣、柵の構造、色彩についての協定を定めた。まだ、整備が不十分な箇所もあるものの、全体的取り組みが高く評価された。（布野修司）

## 玉湯川県単独砂防環境整備事業

### 所在地

八東郡玉湯町玉造

### 事業主体

島根県

### 設計者

(株)日本海技術コンサルタンツ

### 施工者

まるなか建設(株)  
湖南土建(株)

### 概要

石積護岸工  
石材：总部石、大山玉石  
工事延長 520m  
竣工 平成8年3月



以前の玉湯川同区間と比べると、景観に対する配慮はここまで来たかと感じさせられる。温泉街という地区の立地特性を考慮して、住民はもちろん観光客が楽しめる河道の親水性を演出し、非常に苦心・工夫された積極的な造形デザインが注目される。500m余りにわたるこの温泉街の整備区間はほぼ直線に近いが、十数本の橋が横切る区間ごとにゾーニングを行い単調さを回避した分節化を施している。とても凝った河床のデザインではあるが、河床を人工的に蛇行させ固定してしまった点が気になる。これも地域に見合った親水性の確保のために仕方ないのだろうか。それなら、両側の道路との連続性を確保するため、道路から河床へのアプローチ部分の工夫が欲しかった。この道路と川の幅員ではこの部分の工夫は難問ではあるが、このアプローチ部分の貧弱さが道路と河道との分断を助長してしまう気がする。さらに、護岸天端の緑化植栽および防護柵に対する配慮が欲しい。一般に河川環境整備というと、河川自体は上流から下流まで連続したものののだが、このようにある整備区間のみを対象とせざるを得ないのは仕方ないとする、この温泉街の整備区間では高いレベルの景観デザインを施しているといえるだろう。(藤居良夫)

## 黒田川県単独砂防整備事業

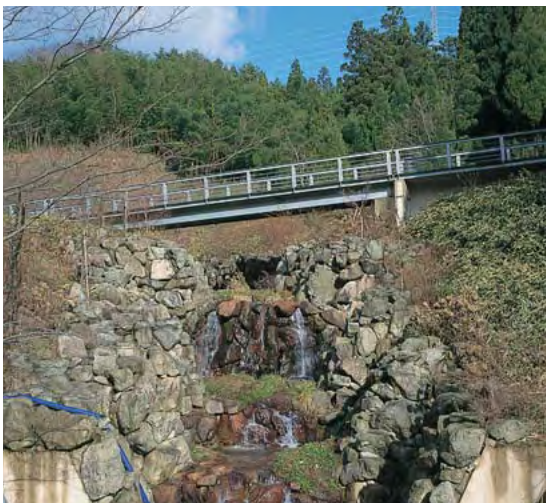
**所在地**  
能義郡広瀬町西比田

**事業主体**  
島根県

**設計者**  
(株)ワールド測量設計

**施工者**  
(有)山本工業  
(有)足立組

**概要**  
石積護岸工  
石材産地 松江市上宇部尾  
工事延長 140m  
竣工 平成8年12月



黒田川は鉄の道文化圏の中心であり、歴史の重みに彩られた金屋子神社に隣接している河川である。関係者によれば、造っていくに当たって、日本庭園を強く意識したということである。砂防河川であるからコンクリートの使用はどうしても必要になってくるが、それが見えないような石組みをしている。その石組みにしても、自然の小川がそうであるように大小の不規則なリズムを意識して造り上げている。水の流れにしてもただ単純に流すのではなく、大きい流れ、小さい流れを不規則に再現して、不均等さをより自然な調和を創り出す試みをしている。やがて石の隙間、水の淀みに、自然に水生植物が芽吹き、ますます美しくなっていくであろう。

水と親しむことへの欲求は、こどもから大人に至まで、形を変えても存在する欲求である。今回のこの事業は、そういった欲求に対して、具体的に工夫した好事例である。  
(島田一嗣)

## 白瀉天満宮前ロータリー広場

所在地  
松江市天神町

事業主体  
松江市

設計者  
松江市

施工者

樹徳産業(株)  
松浦造園(株)

概要

舗装等 白御影石、島石  
植栽 ケヤキ、クスノキ、シラカシ  
ステージ・ベンチ 御影石製照明  
竣工 平成9年3月



市街中心部に位置する、すっきりとした印象の広場である。

ここは古くから神社門前の広場として、祭の時にはイベントの舞台ともなって、人々に親しまれてきた場所であるが、整備前は雑草に蔽われ、日常的には通り抜けに利用されるだけのスペースであったという。それが趣を新たにし、人々の足を止め、憩いのひとときを提供する場に変身した。

色・形ともにシンプルにまとめられたデザインであるが、その中に、曲線の多用が効果的に見受けられる。生垣を背にしたテラスを縁取る階段。敷き詰められた御影石と島石が作り出すモノトーンのパターン。緑地を取り囲むように設けられた自然石のベンチ。これらはいずれもゆったりと弧を描く形状であり、全体に広やかな統一感がある。特にテラスから同心円状に連なる敷石によるパターンは、次々と広がる水の輪を、さらには人の輪を連想させる。このようなイメージは、この広場の性格に相応しいものと言えよう。

夜間には、あたたかみのある光の演出も工夫されている。(八田典子)



# 一般建築物部門 優秀賞

## 林間劇場しいの実シアター

### 所在地

八東郡八雲村大字平原481-1

### 事業主体

八雲村

### 設計者

(有)峯建築設計事務所

### 施工者

一畑工業(株)

### 概要

シアター 鉄骨造地上2階

建築面積 388㎡

客席 108席

竣工 平成7年7月



小高い丘の上に立つ小劇場である。湾曲した大屋根を頂いたユニークな外観は遠くからでも目を引くが、それでいて景色の中にしっくりと落ち着いている。建設にあたり最も留意したことは、「周りの景観とのマッチング」であったというが、その苦心の成果か、非日常的な空間を内包する建物としての個性を示しながらも、周囲の自然や家並みにも「仲間」として受け入れられているような佇まいである。

村の木である椎の木を多用して建てられている。その魅力は内部においてこそ十二分に発揮されるものであろうが、「木のあたたかさ」は周囲にもにじみ出し、遠目にも感じ取られるものである。また、建物だけでなく、駐車場や道などを含めた周辺部から既に「シアター」であるとし、自然美と調和した「しいの実」ワールドの創出が意図されている。

劇場の外壁の色であるくすみがかかった黒も、一見周囲の緑の中に沈み込むようでありながら、じっくりと過不足のない自己主張をしているようだ。演劇空間を包み込むこのやわらかな黒は、多彩な夢を育むやさしく深い「夜」の色にも思える。

(八田典子)

# 一般建築物部門 奨励賞

## はすみ文化プラザ

### 所在地

邑智郡羽須美村大字阿須那  
153番地1

### 事業主体

羽須美村

### 設計者

飯田善四郎建築設計室

### 施工者

今井産業・日高工務店特別共同企業体

### 概要

会議室 図書室  
木造平屋建一部鉄筋コンクリート造  
建築面積 1843㎡  
旧阿須那中学校校舎  
竣工 平成9年3月



この施設は廃校となった中学校の木造校舎を軸組みや一部の土壁などを残して改修したもので、2棟の木造平屋建の中間に鉄筋コンクリート造の玄関ホール棟を増設したH型平面の建物である。

この取りこわされても当然の廃校を村の文化施設として再生された村当局の企画と、その主旨に見事に答えられた設計者にまずもって敬意を表したい。

この施設で最も好感のもてるところは、前面を流れるくふれあい水路から乱舞するホタルをイメージしたというガラスグローブ球外灯のコンクリート列柱のあるアプローチと、村民の旧中学校への思いを配慮し、建物に沿って旧校舎の瓦を小端立てに敷き詰めた瓦畳風のテラスである。ただ、なぜかこのアプローチ廻りから受ける充実感に引き替え、建物全体から受ける印象は希薄である。設計者は、奇をてらわず、村のどこにもありそうな〈形〉と〈自然素材〉により、この村に違和感なくとけ込める建物づくりをしたという。この設計者の謙虚な設計姿勢は理解できるが、風土性へのこだわりなど、今一步突っ込んだ作意があってもよかったような気がする。

(矢田清治)

# 個人住宅部門 奨励賞

## 並河家土蔵改修

所在地  
安来市安来町西小路  
事業主体  
並河 勉  
設計者  
建築設計事務所鉛屋工房

施工者  
㈱ビー・アール・シーさんそ  
概要  
土蔵（天明3年建築の主屋と同時期）  
木造 土塗壁 瓦 漆喰  
工事面積 77.6坪  
竣工 平成8年4月



人が生活していくうえで自分の住んでいる場所の「小路（こうじ）」は、幼い頃から慣れ親しみすぎて、ことさら景観として認識されないものである。しかしながら、「小路」が生活に密着した存在であることを考えると、落ち着いたある「小路」の景観は、その地域の人々が周辺との調和を大切に考えている姿の現われであると考えられる。

今回受賞した「並河家土蔵修景」についても、その家屋自体がその地区の景観に大きな影響を与えていることを家人も十分に意識したうえで、古い土蔵を全く新しいものに改築するのではなく、土蔵の面影を大切に板塀と白壁を基調にし、躯体構造をそのまま再使用して、建てる側の理由のみで改変するのではなく、地域の人が共有し、利用し、見ている空間として再構築している。

意識する景観ではなく、意識しない景観に対して配慮した今回の工夫を優しい試みとして評価したい。（島田一嗣）

# 個人住宅部門 奨励賞



## 所在地

出雲市東林木町

## 事業主体

中島俊夫

## 設計者

宇佐美建築設計室

## 施工者

(株)御船組  
(有)宇佐見組

## 概要

アトリエ付住宅 木造地上2階  
枕木広場  
建築面積 309㎡  
竣工 平成9年3月



芸術家のアトリエ付きの住宅である。個人住宅としてはうらやましいような森に囲まれた絶好の場所に立地する。敷地もゆったりとしている。個人住宅の場合、どういふ点が景観賞に値するかがいつも問題となる。市街地であれば、隣接する建造物との関係や公共空間との関係が評価の対象となるけれど、森の中となると他へのインパクトが弱い。しかし、どんな立地においても基本となるのは、自然との関係である。そうした意味では、外壁を黒で統一しているところといい、おおらかな配置計画といい実にしっかりと自然と調和している。建築作品としての水準は高い。伝統的な民家の雰囲気の中にも現代的装いを感じさせる。枕木を使った庭のしつらいも面白い。  
(布野修司)

# 工作物・その他部門 優秀賞

## 出雲国風土記 道しるべ事業

所在地  
出雲部

事業主体  
島根県

設計者  
(株)エムシー・スクエア

施工者  
(株)エムシー・スクエア

概要  
標柱 説明板  
大きさ 1.6m×38cm×20cm(道標)  
来待石  
80ヵ所



一見、変哲のない道標のようであるが、この変哲のないことの意味性が評価したい。

特殊な奇抜さやデザイン性がないぶん、場所を選ばず、公共物としての価値づけがきちんとされている。又、特産の来待石はその肌あい、色あいなどの素材感に暖かさが感じられ、威圧感がなくなじみやすい。

標識には、車の運転者を対象にしたものと歩行者を対象にしたものがあるが、この事業の場合は後者の方であると考えると、設置される場所によって大・小の変化があってもよかったように思う。

又、説明板、標柱、道標という3つの用途による違いがデザイン上でも表現されてよかったかも知れない。ただし、全体の統一性という点においては現状のものが優れていると思う。

個人的な好みから言えば、機械的工法による固さ無表情さが気になる。10年後、20年後、風雨にさらされ多くの人と出会って、その表情に味わいが出てくるのを期待したい。

(松場登美)

# 工作物・その他部門 奨励賞

## 自動販売機等修景

所在地  
大田市大森町駒の足

事業主体  
玉留屋 渡加一生

設計者  
大田市

施工者  
田中建設

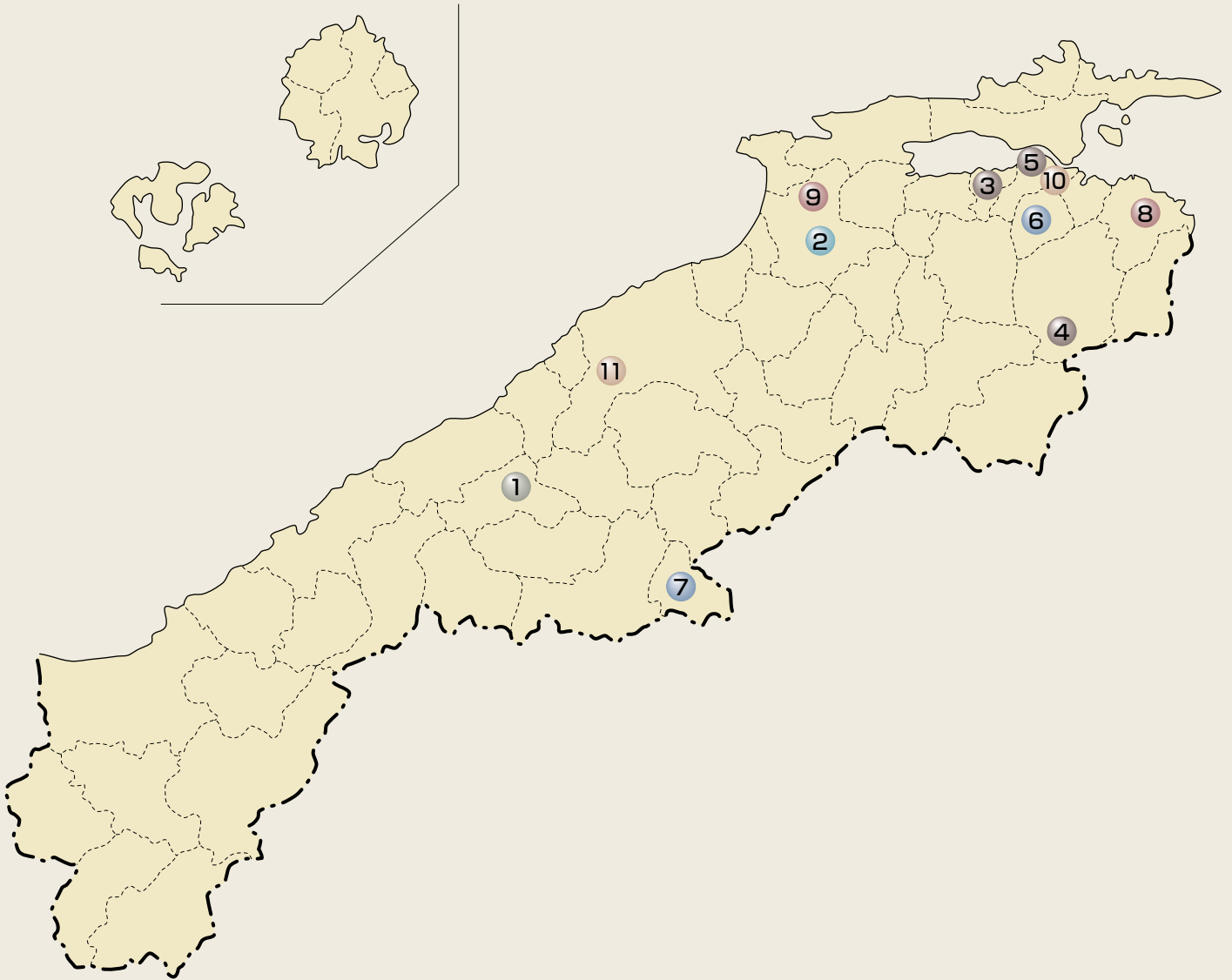
概要  
清涼飲料水用自動販売機  
大きさ 185袍×116袍×56袍  
扉・屋根 杉材



ここ大森町は第1回しまね景観賞まちなみ部門で一度受賞している。今回の受賞は、景観賞を一度もらってしまえば終わりというのではなく、その後のフォローが重要であることの一例といえよう。1987年に国の重要伝統的建造物保存地区に選定され、住民と行政が一体となって着実に町並の修理・復元を行ってきたが、まだまだ多くの問題を抱えている。自動販売機もその一つである。景観上からみると自販機は、存在そのものがマイナス要因であろう。しかし現実に存在している自販機をどのように扱うかを考えるのが景観問題の大切な姿勢なのである。清涼飲料水のC.Iカラーである赤が町並に合わないのでは何とか隠したいというこだわりがこの格子となって表現された。

着色には町並の古色塗りとして使っている、柿渋・弁柄・煤を調合したものを用了。近くにあるプロパンガスや電力計また郵便受けなども、同じように修景されている。

良い景観をつくるには、細部へのこだわりの持続が必要なのである。  
(田村美幸)



## 表彰対象事業・作品

### 大賞

- ① 水ふれあい公園「水の国」  
事業主体／桜江町

### まち・みどり部門 優秀賞

- ② 馬木北町まちなみづくり活動  
事業主体／馬木北景観保全組合

### 土木施設部門 優秀賞

- ③ 玉湯川県単独砂防環境整備事業  
事業主体／島根県

### 土木施設部門 優秀賞

- ④ 黒田川県単独砂防整備事業  
事業主体／島根県

### 土木施設部門 奨励賞

- ⑤ 白瀨天満宮前ロータリー広場  
事業主体／松江市

### 一般建築物部門 優秀賞

- ⑥ 林間劇場しいの実シアター  
事業主体／八雲村

### 一般建築物部門 奨励賞

- ⑦ はすみ文化プラザ  
事業主体／羽須美村

### 個人住宅部門 奨励賞

- ⑧ 並河家土蔵改修  
事業主体／並河 勉

### 個人住宅部門 奨励賞

- ⑨ 中島邸  
事業主体／中島俊夫

### 工作物・その他部門 優秀賞

- ⑩ 出雲国風土記道しるべ事業  
事業主体／島根県

### 工作物・その他部門 奨励賞

- ⑪ 自動販売機等修景  
事業主体／渡加一生

平成9年度

## 第5回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板  
アルミ合金鋳物製  
22×27

### 審査委員

- 小草 信春 島根県建築士事務所協会会長
- 田村 美幸 公共の色彩を考える会委員長
- 八田 典子 島根国際短期大学講師
- 藤居 良夫 島根大学生物資源科学部助教授
- 藤岡 大拙 島根女子短期大学学長
- 布野 修司 京都大学工学部助教授
- 松場 登美 石見地方デザイン計画研究会会長
- 矢田 清治 島根県建築士会会長
- 島田 一嗣 島根県環境生活部長

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

### 審査経過

- 募集期間  
平成9年8月1日～8月31日
- 募集結果  
推薦（応募）総数……98通  
推薦（応募）物件数…92件
- 第1回審査委員会（平成9年6月22日）  
対象物、募集方法、審査日程、審査基準等の検討
- 第1次審査（平成9年10月17日～10月31日）  
推薦書類、写真により第2次審査の対象となる28物件を選出
- 第2回審査委員会（平成9年11月25・27日、12月1日）  
選出された28物件について現地審査及び最終審査を行い、11物件を選定
- 表彰式（平成10年2月12日）  
受賞事業、作品の事業主体、設計者、施工者に対して表彰状を、事業主体には副賞として、銘板も併せて贈呈





シマネスク・島根